

# 防災マップの使い方 ～地震編～

固危機管理課 ☎(582)1119 ㊟(583)5066

近年、大規模な地震や大雨による水害など自然災害が全国で発生しています。「災害はいつでも起こりえる」と考え、自助・共助・公助の連携による「災害への備え」を行うことが大切です。

令和3年3月に全戸配布した新しい防災マップは、国・県が公表した降雨災害を想定した浸水区域図や、本市に影響の大きい地震の想定震度マップ・液状化しやすさなどを掲載した改訂版です。

改訂版防災マップに掲載された「備え」のポイントをシリーズで紹介していきます。

**本** 市は、災害の少ない住みやすい都市とされていますが、巨大地震はいつどこで発生するか分かりません。南海トラフ地震や琵琶湖西岸断層帯地震の想定震度では、家具の移動や転倒など、地震による直接的な被害だけでなく、土地の液状化が発生する可能性があります。想定される震度や被害は、防災マップに掲載しています。

発生確率が低くても過信せずに、日常から地震対策をしておくことが、いざという時の減災につながります。

防災マップは、市役所と地区会館で配布しているほか、市ホームページでもご覧いただけます。



ホームページ

## 守山市の被害が想定される巨大地震

海溝型地震

### 南海トラフ地震

マグニチュード：8.0～9.0程度／市の想定震度：5強  
今後30年以内の発生確率：70～80%

活断層地震

### 琵琶湖西岸断層帯地震(南部)

マグニチュード：7.5程度／市の想定震度：6弱～6強  
今後30年以内の発生確率：ほぼ0%

★発生確率の参考

東日本大震災は10～20%、阪神・淡路大震災は0.02～8%の評価でした。

## 家庭でできる地震対策を実践してください

- 対策①** 家具の転倒や落下によるけがを防ぐため、とめ金具などで家具を固定するなど転倒防止対策をしておきましょう。
- 対策②** 部屋の入口付近には物を置かないようにしましょう。避難の妨げになる可能性があります。
- 対策③** 窓ガラスには飛散防止フィルムを貼り、けがのリスクを最小限に抑えましょう。
- 対策④** 家の周りのブロック塀が破損していないか、鉄筋で補強がされているかなどを点検しておきましょう。

